

# わが子への愛を 世界のどの子にも

## 国際児童年とはどんな年？



父 夕食後のだんらんで…

太郎 お父さん。テレビで国際児童年と言ってたけど、あれはどんなこと？

父 やあ、いいところに気がついたね。その前に一寸聞くけど、国際連合というのを知ってるかい。

太郎 うん。学校で教わったよ。世界の国々が仲よくしようとしてつくった組織だろう。

父 そうだよ。その国際連合、一般に国連と言ってるが、その国連の会議で、児童権利宣言というのをきめたのだよ。

世界には約十五億人の子どもがいるが、教育や、病気の治療や、食べ物も満足に得られない気の毒な子どもたちが、五億人ちかくもいるんだよ。

太郎 そんなにたくさん…かわいそかね。

父 だから、児童権利宣言というのは、そのような子どもたちも、教育を受けたり、病気の時は治療してもらったり、食べ物も十分たべられる、そのような色々な権利を生まれながらにして持っている…だから、世界の国々は、力を合わせて子どもたちの権利を守って、しあわせに、そしてすこやかに育てなければならぬ…ということをきめたんだよ。

太郎 わあ。お父さんはまるで国連で演説してるみたいだね。ハハハ…

父 ハハハ…。そう茶化すなよ。その権利宣言をきめたのが一九五九年だ。

太郎 がまだ生まれる前だが、それから今年がちょうど二十年目になるので、記念して今年を国際児童年と決めたんだよ。

太郎 あゝわかった。じゃあ今年は大人が子どものことをしっかり考えて、子どもがしあわせになるように、色々なことをするんだよ。

父 うん、そうなんだ。よくわかったね。

太郎 まあ、わかったような、わからないような。ハハハ…。

父 ハハハ…。それでは国際児童年とはどんなことをするのか、もう少し詳しく話してあげよう。

お母さんも関係があるから、一緒に聞きなさいよ。

母 ハイハイ。ちゃんと聞いていますよ。

父 まず日本ではね、総理府が中心となつて、国際児童年の事業に取り組んでいるのだが、気の毒な外国の子どもたちのためには、日本からも沢山の資金を送ることになっているし、国内でも募金が行われる筈だ。

母 私たちも募金があったら、進んで応じなければいけませんね。

父 そうなんだよ。そのほか、八月には政府主催の「世界と日本のこども展」が愛知県で開催されるほか、色々な子

どものための調査や、子どもの福祉を向上させるための仕事も、これまでに以上力注がれることになっているんだ。

太郎 じゃあ、熊本県ではどんなことをするの。

父 県でも、国の事業にあわせて色々な計画があるんだよ。民間団体も含めた記念事業推進会議を結成して、活動を始めるそうだ。

母 まず国際児童年とは何かを知らせることが先決ですね。

父 そうなんだよ。まず第一に、県民全部に国際児童年を理解してもらうことが大切だからパンフレットや新聞、テレビ、ラジオなどで啓発広報をすること。次が子どもに関する施策を充実すること。

太郎 少年の船も出すと新聞に出ていたよ。

父 そうだ。記念事業として熊本県少年の船を沖繩へ派遣するそうだね。

母 それはいつですの。

父 八月上旬のことだよ。小学五、六年生と中学生を合計六百人…。

太郎 わあ。僕も行きたくないなあ。

父 思い違いしてはいけないよ。観光旅行ではないんだ。ギッシリ詰ったスケジュールに従って、学習や研修が船内で行われるし、現地では少年団体との交歓会があったり、歴史や文化、風俗人情に触れる参観活動をしたり、ま

あ、楽しい中にも厳しい団体生活を体験させるわけだ。

母 PTAの懇談会でも話が出たんですが、今の子どもたちは、物の豊かさには馴れすぎており、生活態度にケジメがない…ガマンする気持も少ないなど言われていますね。非行の原因もそんなところにあるんですね。

父 そうなんだ。だから少年の船でも、厳しい団体生活をさせるんだよ。太郎はしっかりやれるかな。

太郎 僕、厳しくてもきちんとしてやれるよ。日頃から父上、母上のしつけが厳しいからね。ハハハ…。

父 こいつ、ハハハ…。団員募集は六月頃になりそうだよ。太郎も応募するか。

太郎 うん、ぜひ。

父 そのほかにも、子どものための記念集会や、県内各地での地区大会、青少年をとりまく社会環境の健全化と非行防止活動や、健全育成のための懇談会などの行事が全県下で色々と開かれるそうだ。

母 私たちも出来るだけ出席しましょうよ。

父 そうだな。夫婦そろってハハハ…。母 笑っちゃいけませんよ。子どものしつけはまず家庭でしっかりしなければ

いけませんからね。

父 まいったまいった。そうだよ、そうでなくてはいけないね。近所の方々も誘って行こう。

それから、児童年を記念して、児童遊園も計画されているそうだ。

母 それはいいことですね。

父 それから、少年の主張県大会も開かれるし、その代表は九州から二人、東京での全国大会に出席することになるそうだ。

太郎 わあ、色々あるね。僕も応募しよう。

母 太郎も忙しくなるわね。

父 国際児童年をキッカケとして、我々大人は、自分の子どもだけでなく、すべての肥後っ子、日本の子ども、世界の子どもを真剣に考えなければならぬね。

母 この子どもたちが、二十一世紀の世界を担っていくんですからね。すこやかに育つように、大人は頑張らなくては…。

あらあら。話し込んでいるうちに、お風呂が沸きましたよ。

父 おい、太郎。一緒にはいろう。

太郎 うん。僕が背中を流してあげるよ。

…窓の外は、すっかり夜のときどき…



この漫画は、市町村の広報紙や公民館報などに利用してください

子どもは親の背を見て育つ